



\*日程・内容は変更される場合があります。最新情報は各主催者へお問い合わせください。

# Gallery Information

※掲載はファミス会員であることが条件で、掲載料は無料です。また、各団体から提出された文章を原則そのまま掲載しています。

### 第28回 凧の会展

2026年1月6日(火)～1月11日(日)  
一般展示室 1～4

今回は、2名の強力な新会員を迎え、28名のメンバーは皆張り切って制作に取り組んできました。絵画・彫刻・写真・工芸の1年間の研修結果を大作から小品まで沢山展示致します。どうぞご覧ください。同時個展事務局森清。

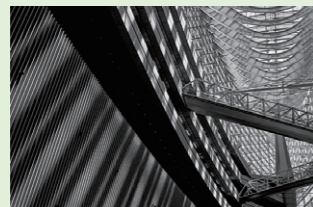


前回の会場風景

### 光と時間の彫刻 Sculpting Light and Time

2026年1月20日(火)～1月25日(日)  
一般展示室 4

アナログのモノクロ写真で描く、光と影の世界。記憶と時間を映すデイク・ペイン展。



光と影のカテドラル

### 馬年だから展

2026年3月10日(火)～3月15日(日)  
一般展示室 4

この大きな生き物は 被食者ゆえに 繊細な心を持ち 肌の温もりは 大地を感じさせ 力強い鼓動は 程よい風のように やさしく 美しい



相澤由利子「老馬」

### 第15回 東京ワークス展

2026年3月17日(火)～3月22日(日)  
一般展示室 3

第15回となる「東京ワークス展」は全国公募新芸術展の関東支部展として、2010年より開催しております。支部展ではありませんが、広く出品者作品形式を自由に集めております。出品希望の方は新芸術協会まで。



「枯野花鳥風月」代表・加藤陽夫

### 領家手づくり絵本の会 50周年記念展

2026年3月24日(火)～3月29日(日)  
一般展示室 4

浦和の地で絵本づくりを続けるグループです。これまでの軌跡と心を込めた作品を展示します。個人作品の他に、見沼たんぼ周辺を舞台として木版画で仕立てた民話としかけ絵本は後世に残したい作品です。ご高覧ください。

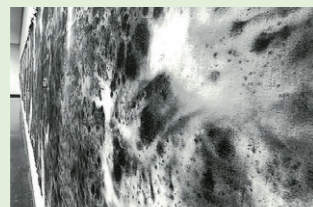


しかけ絵本「見沼のたつまき」の一場面

### ヨシズミトシオ個展 ありあるクリエイションズ 藝術企画

2026年4月14日(火)～4月26日(日)  
一般展示室 4

新・近作の油彩画、水墨画、銅版画等の表現の可能性の展示。海外で開催されました国際アートトリエンナーレの受賞作品も併せて発表いたします。御高覧戴きましたら幸いです。



以前の会場風景

### 第49回 女流工芸展 in 埼玉 (全国公募)

2026年4月23日(木)～4月26日(日)  
一般展示室 1

夢を追いつづけ...より高く...より美しく...より深く...染・織・陶・七宝・硝子・金工・革・藤・木彫・刺繍・人形・押花など、日々の生活を豊かに楽しむコーディネート作品など、女流工芸作家による創造性豊かな作品展示



前回の会場風景

### 第29回 二科埼玉支部展

2026年4月28日(火)～5月3日(日)  
一般展示室 1～4

二科埼玉支部所属作家の作品発表の場であり、支部主催の公募展、小品展(絵画)に応募された皆様の作品発表の場でもあります。絵画、彫刻、デザイン作品200点展示予定です。多くの皆様の作品の応募を歓迎します。



前回のデザイン部の会場風景

### 賛助会員名簿／私たちは美術館を応援しています

(2025年9月28日現在)

#### 特別賛助会員

- |                 |             |              |
|-----------------|-------------|--------------|
| (株)アライ設計        | 浦和興産(株)     | AGS (株)      |
| (株)エフエムナックファイブ  | (株)方口       | Karorino (株) |
| 埼玉画廊            | (株)埼玉りそな銀行  | 埼玉工業(株)      |
| 斎藤工業(株)         | 税理士法人さかえ会計  | (株)榊住建       |
| (有)上州屋リビング      | 損害保険ジャパン(株) | (株)田中工務店     |
| (株)テレビ埼玉        | DAY HAPPY   | 日本自動機工(株)    |
| 日本畜産興業(株)       | (株)ハーベス     | (有)細井技研      |
| (株)ホソカワコーポレーション | 松田産業(株)     | 丸沼芸術の森       |
| (株)万世           | (株)武蔵野銀行    | (株)明成 ベベロネ   |
| メガソーラー機構        |             |              |

#### 法人賛助会員

- |                  |               |               |
|------------------|---------------|---------------|
| (株)ART SPACE 717 | 海游舎           | (有)ギャラリー藤井    |
| (株)コア            | 埼玉書道三十人展実行委員会 | 埼玉二紀会         |
| CAF.N協会          | 社会芸術          | (一社)新構造社 埼玉支部 |
| ZEN展             | 全日本美術協会       | 東京ワークス        |
| 二科埼玉支部           | 見沼100年構想の会    | 領家手づくり絵本の会    |
| 凧の会              |               |               |

#### 個人賛助会員

- |        |        |        |       |       |       |
|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 一瀬 謙輔  | 岡田 謙司  | 岡部 美代子 | 加藤 正宏 | 小松 弥生 | 小森 光子 |
| 清水 武司  | 鈴木 千賀子 | 高崎 考一  | 滝沢 布沙 | 戸所 邦弘 | 野口 真理 |
| 廣澤 公太郎 | 本田 真有  | 丸山 晃   | 梶尾 嘉子 |       |       |

### fam.s (ファミス) とは

埼玉県立近代美術館フレンド (friends of art museum.saitama) の愛称です。fam.s会員は、会員期間内の企画展・常設展を何度でも観覧できます。会員限定のギャラリートークやイベントのお知らせ、ショップなどの優待もあります。入会は随時受け付けています。詳しくはフレンド事務局までお問い合わせください。HPはこちらから▶

### About fam.s



### fam.s museum shop 便り

こんにちは！ オリジナルソックスができました(^^)/

当館の代表的な収蔵品であるモネの作品をはじめ、学芸員のおすすめ作品を長野の靴下メーカーさんと作りました。細かな編目の靴下に360度プリントを施すことで、継ぎ目のない美しい色柄が再現されています。素材はポリエステルでありながら吸水性・速乾性に優れた独自原料。伸縮性もよく、23～27cmまで対応するワンサイズ展開です。これからの季節のシックな装いのアクセントにいかがでしょうか。



価格：1,760円(税込)

- (左から)・モネ/ジヴェルニーの積みむら、夕日
- ・瑛丸/青の中の黄色い丸
- ・今村紫紅/龍虎



龍虎は左右で柄が違います！

ファミス通信 第54号 2025年11月発行  
広報委員◆秋本圭美/安藤恭子/野口恵子/森幹枝  
紙面デザイン◆木村昭司  
発行者◆埼玉県立近代美術館フレンド事務局  
〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1 埼玉県立近代美術館内  
tel 048(824)0111 fax 048(824)0119



ファミスのキャラクター「ファミちゃん」

©fam.s.kei

※ファミス通信は年2回、5月と11月に発行しています。

# fam.s ファムス通信 No.54

friends of art museum.saitama



# みえない世界で響き合う

## —視覚障害者と美術作品鑑賞の取り組み—

埼玉県立近代美術館には、視覚に障害のある方に向けた取り組みとして、MOMAS コレクションやデザイン椅子等をご案内する鑑賞プログラムがあります。このプログラムは、作品案内のご要望を受けたことがきっかけとなって2018年からスタートし、その後、他館の事例の収集や内容の改良を重ね、現在は個人でも団体でもお申し込みがあれば、希望日と館内の状況を調整して実施日を決めて対応しています。担当している学芸員の方々にお聞きしました。

### MOMASのオリジナリティ

常設展示室のMOMASコレクションから、作風の異なる作品を数点選んでいます。作品選びは、ガイド担当の美術館サポーターさんの意向をお聞きしたり、美術館から提案したりと様々です。作品を鑑賞するスペースが確保できることも考慮しています。また、季節の良いときは野外彫刻を選ぶなど、リラックスした場づくりを大切にしています。当館は自由に座れるグッドデザインの椅子を多数所蔵しています。数点を選び、広いスペースのある講堂に並べて、美術館サポーターさんと一緒に一脚踏りながら鑑賞いただいています。その座り心地や素材の感触を楽しむことができます。

「デザイン椅子のコレクションは、当館の特徴でもあります。椅子は触ったり座ったりできますし、身近なものなので、参加者の方の表情を見ると楽しんでいただけているようです。椅子のコレクションがある当館ならではのプログラムです。」(吉岡さん)



触図を前に担当学芸員の皆さん(左から鳴原さん、吉岡さん、菊地さん)

### 触図を手作りする

絵画作品の鑑賞では、触図(絵の輪郭線に凹凸を付けた半立体の模型)の制作にもチャレンジしています。

「触図は試行錯誤からのスタートです。視覚障害のある方に実際に触っていただき、触図に点字もついているといいですねなど、感想をいただいたこともあります。ただし、これを触って鑑賞が完結するというのではなく、作品の情報を得る手助けのようなものだと思います。たとえば、モーリス・ユトリロ《旗で飾られたモンマルトルのサクレ=クール寺院》では、前景に鑑賞者の視点があって、中景に家々があって、遠くに寺院があるという距離感が、触図によって伝えられたらと思い、数枚のパネルを重ねて遠近を表してみました。フランスの国旗は手触りで分かるように、素材を変えています。」(鳴原さん)

### プログラムで気づいたこと

鑑賞される方がリラックスできる雰囲気づくりは大事なことです。毎回感じるのですが、ガイドを担当して下さる美術館サポーターさんの場づくりが素晴らしいと思います。初めて参加される方は、

どんなプログラムなのだろうと緊張することもあると思いますが、サポーターさんが作品を解説するときに、身近なものを使って例えたり、感覚に働きかけるような言葉を選んだりされているのが印象に残りました。自分自身を振り返ると、もちろん失敗もあります。方向を具体的な言葉で言わずに「こっちです」と指示語を使ってしまったこともありました。言葉づかいや周囲に対する細やかな気配りは常に心掛けていたいと思います。」(吉岡さん)

### これから

「先日聞いた障害者対応についての講演会では、既存のルールに縛られすぎず、その都度変更や調整をして対応することの大切さを学びました。ルール前提でNGを出すのではなく、目の前の人にとって何がベストかを皆で考えながらプログラムをつくっていききたいと思います。」(菊地さん)

「来館や鑑賞に対する障壁をできる限りなくし、いろいろな人に来てほしい、というのが大きな目標です。そのためにはどうしたらいいか、プログラムの実施を重ねることで、見えてくるものがあると考えています。昨年、聞こえない方・聞こえづらい方が企画展のギャラリートークに参加しやすいように、手話通訳と文字による情報保障付きのギャラリートークを初めて実施しました。美術館に来て、参加していただける方々の幅をもっと広げていきたいと思っています。」(吉岡さん)



パネルを重ねて触図の制作



7月3日の常設展示室のようす 草間彌生《脚立》/《スーツケース》(1966年)

2025年7月3日、視覚障害者の鑑賞ガイドプログラムが実施されました。この日の参加者は、視覚障害者1名、介助者1名。それに対し、ガイド担当者2名、オブザーバー1名、職員3名でした。1階のMOMASコレクションより3点、休憩をはさみ、2階講堂でデザイン椅子の鑑賞をしました。

手と目で作品に近づく



Iさん手作りの草間作品の触図(作品の複製物ではありません)

### 参加されたHさんのお話(中途視覚障害者)

昨年夏頃、私が所属している「埼玉県視覚障害者福祉協会」から、美術館で視覚に障害のある人たちに向けたプログラムについての案内が届いていました。それに応募したことが、参加することになったきっかけです。最初はどのようなことかとちょっと悩んだりしました。ところが、一回目から衝撃的だったというか、毎回いろんなことに気づくことがあってとても楽しいんです。最初は聞くだけでいいかなと思っていました。そのうちに、自分なりの意見を少しずつ言えるようになってきて、表現ができるようになりつつあるのかなと思います。自分が理解できるかどうか、そんな不安が大きかったですね。でもね、そんなことあまり気にすることないんだと今はそう思います。美術館のデザイン椅子にも直接触れたり、座れたりして、聞くだけでなく手の感触も楽しいです。これから、もっと頑張って来よう!と思います。

ガイドをされた方に、選んだ作品と工夫された点、実施の感想などをご寄稿いただきました。

### ご案内した作品

- ・草間彌生 《脚立》/《スーツケース》(1966年)
- ・ウジェーヌ・ドラクロワ 《聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち》(1860年)
- 寄託作品(丸沼芸術の森蔵)

何度もご来館されている方なので、鑑賞にバリエーションがつくようにジャンルの異なる作品を選びました。これまでの鑑賞体験も活かして「展示空間そのものの鑑賞」を冒険してみました。今回は触図についても考えました。触図は副次的なもので触読される方へ寄り添うことが前提です。ドラクロワ作品では構図を共有できるようなものを考えて作り、草間作品には網目がどのように発生したかわかるように作業性を持たせました。「草間さんのスーツケースの中には彼女の過去が詰まっているんじゃないかなあ」と深い感想をいただくと、もっと人間力をつけなくてはと省みます。「伝えたい」思いで臨むのですが「伝えていただいたもの」の方がはるかに多く、「ここから」また始まります。(ガイド Iさん)

### ご案内した作品

- ・瑛丸《雲》(1959年)
- ・笠松 栄《折り紙チェア/ツル-B》(1983年)

みんなで会話をしながらガイドをしています。「雲」を選んだのは、抽象画ですから他の人の感想を元で動きや空間を自由に想像していただきたいと思ったからです。視覚障害者の方と鑑賞する場合には、頭の中で想像ができるように、作品の情報を視覚以外の感覚でわかりやすく伝えるようにしています。たとえば、「赤」の色の違いを表現する時は、炎のような熱い「赤」とか、暮れていく夕方の切ない優しい空気感の「赤」と表現します。今回は中途視覚障害者の方なので、記憶にある似たような色や形を例に言葉を選びました。実際の作品の色や形と、感じ取っているのとは違っているかもしれません。でも、違っていてもいいのではないのでしょうか。見えている私たちも同じ作品を観て、それぞれ違う感想を持つのですから。もっと多くの方々に、楽しんでもらいたいと思います。(ガイド Mさん)



みんなで作品のイメージを伝える



「この椅子、自分の部屋に置きたいな」

### オブザーバー Aさんのお話

さわれない立体作品や抽象画をどう進めるのかなと思っていました。私も視覚障害者のある方と一緒に作品を見ることもありますが、そこで大切に考えているのは、見えているものもいないものも、その場にいるみんなでシェアすること。話題になっていることやわからないことを一緒に考えてみるという体験です。この日の鑑賞では、スーツケースの中身を想像したり、新聞紙で作品のサイズを示す着想が楽しかったです。瑛丸の絵の点描をふりかけに例えたガイドもなるほどと思いました。美術館に来る誰しもが、そこでしか出会えない作品と向き合った時に心に豊かなものが芽生えたらいいな...と思っています。

## 川越市立美術館「タッチアートコーナー」



「タッチアートコーナー」長谷川さち展



特別展「〈タッチアート〉その後の彫刻4人展」

川越市立美術館には、作品に触れることのできる「タッチアートコーナー」が常設されています。学芸員の演田さんにお尋ねしました。



タッチアートコーナー

「このコーナーは、美術館の立ち上げの時に、県内唯一の盲学校が川越市にあり、学校からの「生徒が美術館を楽しめるような工夫はできないか」というご要望をいただき始まりました。実際のところ「タッチアートコーナー」は、見える見えないということに関係なく、だれもが気軽に美術鑑賞できるスペースを目指しています。年に4回、展覧会を開催しています。作家さんには、「触ってもよい」作品を出品して下さるようお願いしています。作品の解説は点字で読むこともできます。点訳は、点訳サークル「きつつきの会」をお願いをしまして、作家さんのプロフィールや作品の意図が伝わるようにしています。この春より当館のサポートスタッフ(登録ボランティア)が、不定期ではありますが、タッチアートコミュニケーターとして、このコーナーのご案内と一緒に作品を見るという取り組みを始めました。「タッチアートコーナー」は1階の無料のスペースにあります。ぜひお立ち寄りいただき、ご鑑賞ください。」



長谷川さち 《全てを含む私、または私を含む全て》 2024年 撮影:山本純